

救急カートの標準化と管理の定着

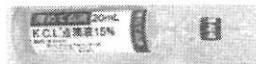
PL病院

○ 井上 恵実 医療安全管理委員会

本研究は平成 18 年度厚生労働省科学研究費補助による医療安全・医療技術評価総合研究事業「医療安全のための教材と教育方法の開発に関する研究（H16-医療-002）」の一環として実施した。

過去の救急カート

- 管理は、設置部署任せ
- 物品・薬品・カートのタイプの統一性はない
→設置部署のスタッフしかわからない状況
- 危険薬
KCLや10%キシロカインなども入っていた



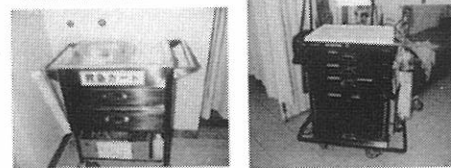
KCL補正液が20μgに変更



オリバスKに変更

PL病院 医療安全管理委員会

大きさ 色 収納物品 薬品 ばらばら



購入年月日
5~20年以上前

PL病院 医療安全管理委員会

医療機能評価のチェック項目

- いつでも使用可能な状態に保守・点検されている
- 薬品・物品の位置が決めており、どの職員が使用しても間違わずに使える
- 各部署一定の位置に設置されている

PL病院 医療安全管理委員会

誰でも いつでも どこでも 使える 安全な 救急カートの整備

- 救急カート内の緊急用の薬品と医療器材、および引出し内の保管場所配置の標準化を行うことで、認知負担を減らし、選択エラー(薬剤の種類や量など)に起因する誤投与を防止する。
- 目標
院内救急カートの薬品、医療器材、配置方法が院内で統一される。薬品、医療器材のメンテナンス体制が確立される。(NDP Best Practice 危険薬の誤投与防止対策より)

PL病院 医療安全管理委員会

収納薬品・物品の調査、決定

たくさんの機材の中から1つを見つけ出す
使用していないものも定数化
成人・小児両方関連部署は、
1つの引き出しに収まらない

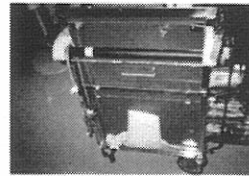
	成人用	小児用	手術室用	他
呼吸機ブレード大	1			1
呼吸機ブレード中	1			1
呼吸機ブレード小1		1		1
呼吸機ブレード小2		1		1
呼吸機ブレード小3		1		1
呼吸機ブレードS		1	3	1
呼吸機ブレードSS		1	4	1
呼吸機ブレード小その他		1		1
呼吸機ブレードM/L		1		1
呼吸機ブレードその他		1		1
吸引機電球 大	2	2		2
吸引機電球 小		2	2	2
気管内チューブ2.0			2	2
気管内チューブ3.0			2	2
気管内チューブ3.5			2	2
気管内チューブ4.0			2	2
気管内チューブ4.5			2	2
気管内チューブ5.0			2	2
気管内チューブ5.5			2	2
気管内チューブ6.0			1	1
気管内チューブ6.5			2	1
気管内チューブ7.0			2	1
気管内チューブ7.5			2	2
気管内チューブ8.0			2	2
気管内チューブ8.5			2	2

PL病院 医療安全管理委員会

他病院の見学



カートの種類
色
薬品
医療機材
など
すべて統一されていた



PL病院 医療安全管理委員会

小児用と成人用の色分け 認知負担の軽減(わかりやすくする)



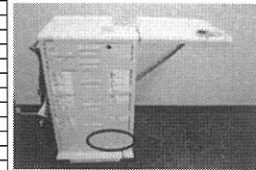
2004.1から1台でプレテスト開始

PL病院 医療安全管理委員会

救急カートの管理方法

	カートNo.	部署
成人用	1	1 救急科
	2	2 救急科
	3	3 救急科
	4	4 救急科
	5	5 救急科
	6	6 救急科
	7	7 救急科
	8	8 救急科
	9	9 外科
	10	10 救急科
	11	11 救急科
	12	12 プラント
	13	13 救急科
	14	14 救急科
小児用	15	15 小児科
	16	16 小児科
	17	17 小児科
未使用	18	18 未使用

■番号の統一
カートにNoを表示し、どこで使用しても定位置に戻ることができる

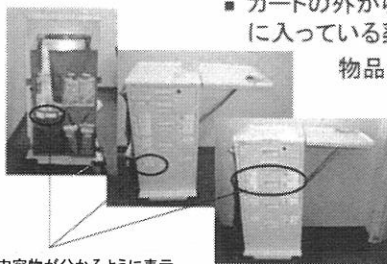


「カートNo. シール」をこの場所に貼る。

PL病院 医療安全管理委員会

効率よく物を出す

■ カートの外からでも中に入っている薬品・物品がわかる



内容物が分かるように表示

PL病院 医療安全管理委員会

各部署独自で使用するもの

■ どうしても入れておきたい薬品・物品



各部署で管理

誰が使用しても間違わないよう区切りをつけて明確にしておく

PL病院 医療安全管理委員会

巡回後の調査結果

- 前回指摘箇所の改善はできている
- 定期点検はできている
- 同じ物品が重複して入っていた
- ひと目で、点検後のものであるかすぐに判明できるカートは少なかった
(チェックシートを見ると確認できるが)

PL病院 医療安全管理委員会

2006年 新病院へ移転時の対応

- 3/31 外来の備品運搬移動
- 4/1朝 患者移動
- 4/1午後 病棟備品運搬移動

患者が移動し、病棟の物品が届くまでの間、
外来の救急カートを各フロアに配置し、緊急時に備えた。
(1フロアは、2病棟)

PL病院 医療安全管理委員会

新病院に4台新設

- 事前に購入
- 薬品・物品は一覧表を参考に設置場所のリスクマネージャーが準備する
- 移転時には使用可能な状態にしておく

PL病院 医療安全管理委員会

評価

評価指標

- ・標準指針を遵守していない救急カートの数と割合 0件
- ・救急時の薬剤の誤投与に関連するインシデントの発生件数 現時点で0件

評価指標から見て、目標は達成できていると判断

PL病院 医療安全管理委員会

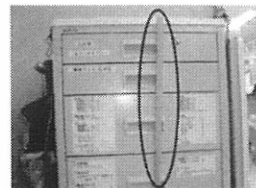
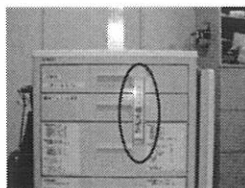
結語

救急カートを整備(同一機種・薬品・物品の統一と同一の配列)し、標準化・管理を定着させることは、
緊急時の安全管理(インシデント防止)につながる

PL病院 医療安全管理委員会

課題

- 使いやすさについてのアンケート調査
- ひと目で点検後であるか、確認できるシステム作り



PL病院 医療安全管理委員会